

地震と建物を知って、安全を考えよう

平成30年9月17日（月）（場所：豊田高専 125 教室）において、建築学科の教員及び技術職員、学生による公開講座「地震と建物を知って、安全を考えよう」が開催されました。

本講座は、中学生を対象とした講座で、4つの講義と実験により、地震の発生から建物の倒壊までを学びました。今年初めて開講した講座で、9月の開催となりましたが、定員を満足する応募がありました。

最初に講義①として「地震の発生と地面の影響」を講義の後、地盤の厚さ・硬さと地盤の周期特性の関係をゼリーを用いて実験しました。次に講義②として「地震のちから」を講義の後、タブレット端末を用いて地震の揺れ幅と計測震度の関係を実験し、握力計を用いて水平方向最大加速度を体験しました。午後からは、講義③として「地震と建物」を講義の後、紙模型を用いて筋かいの効果について学びました。最後に講義④として「建物の耐震性と倒れ方」を小型立体模型を用いて、参加者全員で筋かい配置と耐震性について実験と通して学びました。

受講生は4種類の実験を通じて、耐震工学への興味を持ったようでした。普段なかなかできない体験であったため、真剣な表情で先生の話聞いて作業に取り組んでいました。



ゼリーによる実験



タブレット端末による実験



握力計による実験



立体模型への壁の設置



人力による加振



立体模型の倒壊の様子